

第2部

ウルバンバ溪谷越しにインカの連山が一望できる稜線の幕営地プユパタマルカ(3600m) 中でもビッグな景色がマチュピチュ聖山のサルカントイ山、ウーマンタイ山の眺めです。雲上の絶景地から階段状の急坂を下り、更にウルバンバ川に切れ落ちる超急斜面を巻き込むように進むとマチュピチュのゲート、太陽の門に到着。足下にマチュピチュ遺跡が見えた時は達成感から苦難の道のりを忘すれます。この日は遺跡見学を行わずに麓のアグアスカリエンテス村へ下り、翌日1日かけて遺跡巡りやワイナピチュ山登頂を楽しみ、夕方のビスタドーム列車でクスコへ戻りました。



(朝のマチュピチュ遺跡 5/19日)

○マチュピチュ遺跡へ

朝起きると雲間にベロニカ連山が浮かびあたたかも哀愁インカ風の様相。この様子なら昨日見えなかった聖山サルカントイ山(6271m)が見えるのではと裏手の丘へ向かえば、氷河をいただく凛々しい山容が現れました。朝食を取り、トレッキングで活躍してくれたポーター、コックの皆さんに一人ずつ心付けを渡し、稜線のテント場を後にしました。ここからマチュピチュへ向け標高差 1300mの下りが続きます。けれども、道中綺麗な遺跡が点在し、300種類ほど有ると言われる(人により数が違う)ランはじめインカの花々を愛でながらマチュピチュを目指しました。



(太陽の門手前のインカ道 5/18日)



(ペロニカ連邦 5/17日)

○マチュピチュ遺跡見学

トレッキングの疲れを考慮して、翌朝のマチュピチュ遺跡行のバスを何時もより 30 分遅らせたせいかバス停は長蛇の列。でも、7:00 時には遺跡見学をスタートでき、8:00 のワイナピチュ登山開門時間まで、柔らかくすがすがしい朝日が射す遺跡見学しました。今年ワイナピチュ登山でビックリしたのは、一方通行が始まる頂上直下のルートが逆周りに。目が眩むような直下の下り階段が逆方向の登り階段になり、私的にずいぶん登りやすくなったと感じました。マチュピチュを訪れる皆さんも登ってみては如何でしょうか。尚、ワイナピチュ登山は申込みが必要で 1 日 400 人まで、くれぐれも自己リスクで安全に登られて下さい。



(午後のマチュピチュ遺跡 5/18日)





○ナスカの地上絵

今年も最終日にリマから車で砂漠状の太平洋岸を南下しピスコ空港へ。そこで双発の小型飛行機に乗り換えナスカ地上絵の遊覧飛行へ出かけました。筆者は今年も地上待機、よって地上絵の写真は有りません。

○ランの花

マチュピチュ周辺は蘭の花の宝庫とか。私は全く詳しくありませんので代表的な花の写真を掲載しますが、ジャングルにはマニア垂涎の花があると思います。



夏季前半の天溪ツアーは以下の日程で連続して実施されます。ご期待ください。

6/20 日発 「花のスイス・アルプスハイキング 9 日間」

6/28 日発 「花のスイス・アルプスハイキング 9 日間」

7/11 日発 「モンブラン・マッターホルン縦走 10 日間」

7/20 日発 「モンブラン・マッターホルン縦走 10 日間」

7/25 日発 「スイス・アルプス縦走 10 日間」

※7/11 日発 「花のカナディアンロッキー9 日間」 都合により今年はお休みです。